

2017年度小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 向日葵会	代表者	中澤 博子	法人・ 事業所 の特徴	地域住民が主体となって設立した保育園を母体とする法人です。そして、保育園設立に奔走した親たちが中心となり、地域住民と協力して「自分たちが入りたい高齢者施設」を創りました。現在、2つの保育園の他、デイサービスセンター、小規模多機能、居宅介護支援センター、地域包括支援センターを運営しています。
事業所名	小規模多機能型居宅 介護事業所ひまわり	管理者	山田 恭史		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	人	3人	0人	3人	1人	人	4人	1人	13人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	私たちのケアの根拠や実践の意味をチームとして共有する取り組みを進めるとともに、ケアや実践の評価において数値化できるものは数値化する。	月1回開催のケア会議の資料として「〇月度報告」に整理するとともに、進捗状況表を作成したが、全体に共有しきれなかった。	特にありませんでした。	利用者ひとりひとりのケアプランに基づいたチームケアを目指すために、月1回開催のケア会議を充実した場にします。また、研修に参加しやすい環境や条件整備に努めます。
B. 事業所のしつらえ・環境	小規模多機能ひまわりの存在や具体的な場所・機能が一目でわかるような掲示を工夫して増やす。	小規模多機能の機能である「通い」「泊り」「訪問」の文字を入れ、小規模多機能ひまわり単体の掲示を追加した。玄関の鍵は防犯のために夜間に施錠している。	特にありませんでした。	引き続き、小規模多機能ひまわりの存在とその機能をわかりやすくお知らせする工夫、利用者の家族、友人、知人がちょっと訪問したいと思えるような環境づくりをすすめます。
C. 事業所と地域のかかわり	地域の行事やイベントに利用者が参加すること自体が小規模多機能ひまわりの周知に繋がると捉え、更に積極的に参加してアピールする。	極近隣の方やひまわりにかかわりのある方から法人向日葵会やデイサービスを通して、または並木地域包括支援センターに相談するといった事例があった。	「事業所と利用者のかかわりならわかるが、事業所と地域とのかかわりはわかりません」「本人がその日にあったことを話すわけではないので、地域とのかかわりについてはわかりません」	ケアマネジャーの訪問、送迎時のご家族とのかかわり、ケアなどの際に、地域生活という視点でのコミュニケーションを意識的に行い、プログラムなどに繁栄させます。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	利用者が地域に貢献している喜びを実感できる機会を持つ。一人暮らしの利用者を中心に、年1回は近隣の方と公的機関を含めて情報共有する機会を持つ。	利用者本人が住んでいる地域の方を交えた「会議」として実施はできなかったが、近隣の方と連絡を取り合いながら対応した事例があった。	「一般の方にも施設の行っていることや良さをPRすることが大切なのではないか」「PRする対象者を考える必要がある」「ひまわりの掲示板をもっと活用する」「バザーのチラシ配布する時にPRする」	リーフレットや「ひまわり通信（小規模多機能 Ver.）」（仮称）の作成を目指し、中新井地区の公共機関（社会資源）に配布・設置を依頼します。また、掲示板に掲示したり、バザーのチラシなどと一緒に配布したり、地域にPRします。
E. 運営推進会議を活かした取組み	運営推進会議においていろいろな話ができるような座談会の場を設けるなど、その運営を工夫する。	今年度は5回開催。「サービス評価」論議中心の会議形式が2回。デイとの合同行事の「納涼際」と「防災訓練」、小規模独自プログラムの「秋の味覚“秋刀魚の炭火焼き”昼食会」への参加と懇談会形式が各1回計3回実施。運営推進会議で出た意見は、検討して実現可能なものは改善につなげている。	「個人情報の観点から施設からの発信は難しいので、施設側以外の参加者から発信があると良いと思います」	運営推進会議の場を通して、またデイサービスセンターひまわり、第2ひまわりとともに、地域社会への貢献について実践的に模索していきます。
F. 事業所の防災・災害対策	自治会主催の防災訓練に参加するとともに、職員の夜間防災避難訓練を実施する。日中のデイとの合同防災避難訓練に参加を呼びかけ、防災計画について説明する機会を設ける。	自治会主催の防災訓練に職員1名が代表して参加。職員のみでの夜間防災訓練を実施。日中のデイとの合同防災訓練を実施。事業所の防災計画（火災・風水害・地震等）は、防災避難訓練計画という形である。防災訓練当日説明した。	特にありませんでした。	夜間を含めて、利用者ひとりひとりの状況に即した避難方法を検討し、それらを想定した訓練を実施します。

